

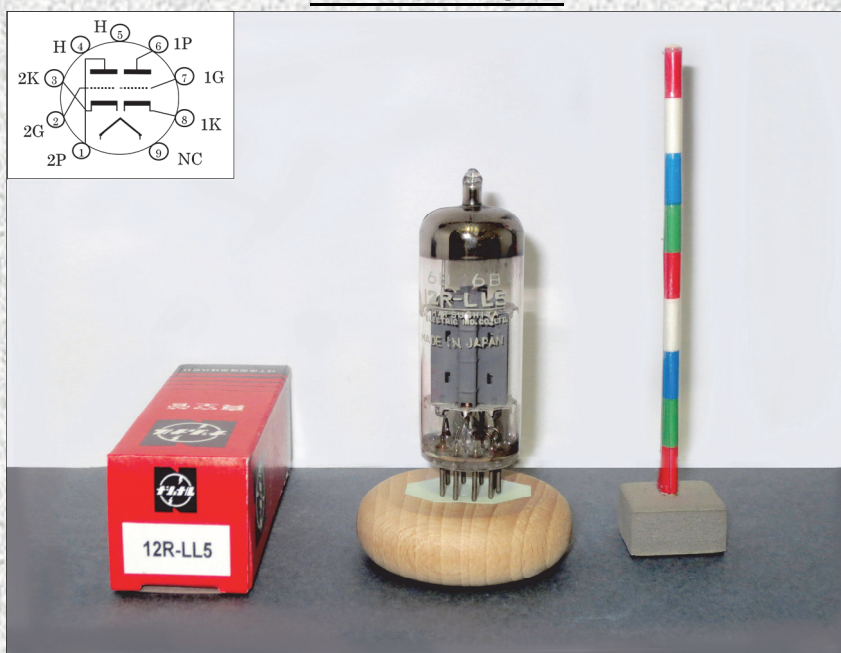
(2) 水平発振管

(a) ブロッキング発振管

使用時期	水平発振管	Tube- 番号
1960(S35)～1963(S38)	12BH7A(T)	-202
1962(S37)～1964(S39)	6CG7(T)	-246
1964(S39)～1969(S44)	6FQ7(T)	-250
1964(S39)～1966(S41)	6FQ7,6CG7(T)	-250, -246
1963(S38)～1970(S45)	8FQ7(T)	-296

(b) 変形ブロッキング発振管

使用時期	水平発振管	Tube- 番号
1960(S35)～1970(S45)	12BH7A(T)	-202
1966(S41)～1970(S45)	12FQ7(T)	-483
1966(S41)	12R-LL5(T)	-492
1964(S39)～1965(S40)	6CG7(T)	-246
1968(S43)～1970(S45)	6FQ7(T)	-250
1964(S39)～1966(S41)	6FQ7,6CG7(T)	-250, -246
1970(S45)	6LN8(P)	-238
1964(S39)～1970(S45)	8FQ7(T)	-296
1970(S45)	9JW8(P)	-233
1968(S43)	9JW8(T)	-233

Tube- 492:**12R-LL5**

サンプル・メーカー	松下電器産業（National）		外形番号	mT
使用時期	1966(S41)	初期使用機種	松下電器産業(TK-900D)	
使用回路	CTV:水平発振,AFC	E_f [V] × I_f [mA]	12.6×300	

特徴：**6FQ7**の300mA版として**12R-LL5**が製作された。**12FQ7**の前身

経緯：**12R-LL5**は**12FQ7**として正式に登録されると、以後**12FQ7**が製造された。

NECが開発した。昭和41年4月発売のTK-900D（カラーテレビ、松下電器産業）にのみ使用されている。（箱はオリジナルでは無い） 規格等を記した文献は見当たらない。

出典 Koji HAYASHI、日本の古いラジオ、

http://www.geocities.jp/radiomann/HomePageVT/TV_GPTT.html#12FQ7



一部拡大



通電状態